

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301195		
法人名	株式会社 アイリスケアサービス		
事業所名	くつろぎ保養館		
所在地	〒031-0802 青森県八戸市小中野4丁目3-45		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・法人内や法人内で行われる認知症や虐待防止、身体拘束廃止、褥瘡防止、感染症予防などの研修に参加して、基礎知識の充実を図ると共に実践にも活かせるように努めている。 ・職員からの意見や提案をケアに反映させるように努め、同時に職員の仕事に対するモチベーションが維持できるように図っている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年1月20日		

<p>利用者を尊重することを重視しながら、事業理念に沿った親しみのある環境づくりに努めている。法人内での研修が充実しており、定期的に学習やスキルアップできる体制を整えている。また、災害対策については地域との連携や併設事業所との協力体制が築かれている。現在はコロナ禍により外出支援を自粛しているが、普段は季節に応じたドライブや、利用者の希望に応じた買い物支援を行っている。また、職員同士の意見交換が普段から行える環境づくりを行っており、職員の目標やモチベーションを維持できるとともに、利用者への支援に反映できるような体制を整えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	館内の数箇所に理念を貼っており、常に確認できるようにしている。	住み慣れた地域で本人の思いに沿った暮らしができるよう、支援するとともに家族や地域との絆を大切に、一人一人の思いを大切にするという理念を玄関やホールに掲示し、いつでも確認しながら支援をするよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。敬老会に利用者が参加したり、運営推進会議に町内の方が出席してくれている。	町内会に入っており、敬老会等の行事に参加している。町内の民生委員や社会福祉協議会の方が運営推進委員になっており、地域の情報のやりとり等の交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症についてや介護サービスについての研修を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、サービス評価結果や評価項目への取り組みについて報告している。また、運営推進委員の方々にご意見をいただき、運営やサービス向上に活かすように努めている。	コロナ禍により、運営状況や利用者との活動について資料配布を行いアンケートを回収している。コロナ禍以前は、感染症や認知症等のテーマを決めて、勉強会を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナ感染予防対策以前は、市の介護保険課から推進会議へ出席していただき、意見をもらうなどしていた。現在は、メールやFAXでのやり取りが主になっているが協力関係を築くけるように努めている。	運営推進会議開催時に市の担当者との情報交換を行ったり、困ったことや分からないことはその都度直接確認し、助言をもらう等連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止」の研修を年2回実施している。また、「身体拘束廃止適正化対策委員会」を年4回以上開催しており、その内容を職員全員に周知している。また、「身体拘束廃止適正化のための指針」を事務所内の目に付くところに置いてあり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回の研修会を開催し、職員の知識と理解を深めるとともに、「身体拘束廃止適正化対策委員会」を設置し、3ヶ月に1回日々のケアについて検討を行っている。玄関の施錠は夜間のみ実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」に関する研修を年3回実施しており、高齢者虐待防止法などについて学んでいる。また、事業所内でも虐待を見過ごすことのないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いぜん、成年後見制度を利用していた入居者様が2名ほどいて、職員は実践的に学習することが出来た。また、制度について理解を深める機会を儲け、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行ない、不安の解消や理解を図っている。また、契約時以外にも疑問等があればいつでも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所された時に、お話を伺い、要望や意見を引き出すように努めている。また、利用者様とは普段の対話の中で聞き出すようにしており、意見を運営に活かせるようにしている。	利用者からは普段の会話の中で要望や意見を確認している。また、家族が来所した時や電話連絡した際に、利用者の状況を報告するとともに、意見や希望を確認している。受けた要望に関しては職員間で共有するとともに管理者や施設長に報告し、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時に、随時、意見や提案を聞くようにしている。また、代表者は職員の意見を取り入れてくれている。	普段の申し送りの際に、職員から活発的に意見が出る環境づくりに努めているほか、職員会議時にでた意見や提案を管理者や施設長が聞き入れ、業務改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業に対するモチベーションを維持できるように、可能な限り、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、及び部署での様々な研修を行っている。本年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、殆どの研修が中止になっている。オンラインで受講できるものは可能な限り受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に所属している。例年であれば協会が主催する勉強会などに参加しているが本年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前から、ご本人の生活歴や現在の状態に関する情報をもらいケアに活用できるようにしている。また、サービスの開始段階でご本人の思いを聴く機会を設け、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の段階で、可能な限り家族との話し合いの時間を設けて、家族の思いや要望を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の希望があった段階で、本人や家族から意向や状況を伺い、必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状況を理解し、ご本人を支援するだけでなく、ご本人と協力しながら生活を作り上げていけるように図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係が其々異なるが、可能な限り、御家族にも出来る範囲で協力して頂き、ご本人との絆が途切れないように図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活歴を理解し、これまで築いてきた関係が途切れないように面会や連絡の支援に努めている。	コロナ禍により今年度は基本的に外部との交流を行っていないが、手紙や電話でのやり取りができるよう環境づくりを行っている。また、コロナ禍前にカラオケに出かけていた利用者に対し、居室でカラオケができる時間を作る等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者との交流に無関心な方もいるが、可能な範囲で交流ができるように出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移動されても、必要時はフォローしたり相談があれば対応するなど支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご本人の意向を伺い、それに添うような支援を図っている。入居後も、定期的に意向を聞くようにしている。	入居時に家族から生活歴や趣味嗜好を聞き取りしている。また、普段の利用者との会話の中から、希望や意向を確認して、職員間で共有し、ケアの場面に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人や御家族から生活歴やこれまでのサービス利用の経過を伺っている。また、情報提なども利用して、現在までの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの現状を、職員間で情報共有しながら詳細に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員だけではなく、他の職員からも意見や情報をもらい、ご本人や御家族とも話し合い、現状に沿った介護計画を作成できるように努めている。	担当者を中心に他職員から利用者の状況や意見を聞き取り、モニタリングを行っており、それを基に介護計画を作成し、家族に要望等の聞き取りや計画の説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ多くの情報を介護記録に記載するようにしたり、小さな気づきも申し送りしている。それらを日々のケアや介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設での一連のサービス以外に、その時々ニーズに対応した柔軟な支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にどのようなサービスや資源があるのかを、把握に努め安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の2週間毎の受診や状態の報告を支援している。また、必要に応じてかかりつけ医以外の受診にも対応している。	2週間毎に行う通院は、受診前に主治医に利用者の状況を事前に連絡し、スムーズな受診ができるよう職員が対応している。受診結果は家族に報告している。また、普段から利用者の体調に関して協力医の看護師に相談できる体制を築いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している看護職員はいないが、協力病院の看護師に2週間毎に状態を報告している。また、突発的な体調不良の際にも連絡をして適切な受診が出来るように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院前の状況、体調に冠する情報を共有できるように図っている。日頃は、定期的な状態報告をするなどして関係づくりを行うよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期のありかたについて意向を伺っている。また、事業所で出来ることの説明を行ない、納得のいく終末期を迎えられるように努めている。	事業所での看取りの対応は行っていないが、入居時や利用者の状態の変化に応じて、重度化や終末期に向けた意向を確認し、家族と職員が共通認識を持つよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時におけるマニュアルを作成し職員に周知している。また、職員全員が救命救急講習を定期的受講して、緊急時の対応を身につけられるよう図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災避難訓練を実施している。また、半年に1回の水害・地震による災害訓練を実施している。	毎月行っている火災避難訓練は併設する事業所と合同で実施し、協力体制を築いている。半年に1回水害や地震に対する訓練も実施しており、緊急時には町内会の協力依頼も行っている。食料や水の備蓄は3～4日分を事業所で保管している。	地震や水害時の避難を事業所3階に定めているが、事業所外に避難する場合も想定し運営推進会議等で地域の意見を取り入れながら引き続き検討していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者様は人生の先輩である。」と職員全員が認識しており、親しさの中にも礼儀を重んじた言葉掛けや対応をしている。	利用者との関係づくりを親しみをもって接するとともに、礼儀を意識して対応している。また、利用者職員で慣れあいがないよう言葉遣いや接遇の勉強会を開催し、支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設の理念にも「自己決定の尊重」を掲げておりご本人が自己決定出来るように支援をしている。また、思いや希望を表出しやすいように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大まかに決まっているが、利用者様は其々の希望に沿った過ごし方をされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に配慮して、身だしなみが整うように図っている。また、衣類や生活の小物の選択を支援して「おしゃれする気持」を継続できるように図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	口腔ケアを支援することにより、自分の口で食事することが継続できるように図っている。食事のメニューは好みを反映できるようにしている。また、出来る範囲で調理の準備や後片付けを手伝って頂いている。	献立作成や調理は事業所で行い、同じ食材でも、個々の嗜好や希望に応じたメニューで提供している。下膳やテーブル拭き、調理の下ごしらえ等利用者と一緒にやっている。時々お弁当を外注して雰囲気を変えて楽しめる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が各々違うため、バランスよく摂取できるように摂取量を記録している。また、出来るだけ好みに応じたものを提供できるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに対して、職員が手伝ったり、磨き残しがないかを見るなどして支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリや時に応じてPWCを使用しているが、殆どの利用者様は、排泄が自立している。自立の継続が出来るように支援を行っている。	個々の排せつ状況の把握に努め、必要時にポータブルトイレを使用する等、本人の状況に合わせて排せつの自立が継続できるよう対応している。夜間時は睡眠時間を考慮しながら排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のこまめな摂取や簡単な体操の実施などを支援している。頑固な便秘は主治医に報告し便秘薬の処方を依頼している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決められているが、入浴時間帯はできるだけご本人の希望に沿うようにしている。当日に入浴できない場合は、別の日を設定して入浴を勧めたりしている。	入浴は一人でゆっくりと入れるよう、時間や声がけを配慮している。また、入浴日は決まっているが、体調不良時や入浴できなかった場合は別の日に差し替えたり、清拭にて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠ったり休息できるように、温度や明るさなどの環境整備に努めている。また、起床時間がまちまちなため早い時間帯に起床された方には、飲み物や軽作業をしてもらい他の利用者様の安眠を妨げないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報がすぐ閲覧できるようにファイルしており、服用している薬の情報がすぐに分かるようにしている。また、症状の変化に注意し、変化があった場合は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後に余暇活動や体操をしてもらっている。メニューは毎回違ったものを提供している。また、軽作業では目標を持ってもらい達成感が得られるように図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は行事等や散歩などの外出を支援していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため受診以外は殆ど外出できていない。人通りがないときを見計らって職員と短い散歩を実施する程度となっている。	コロナ禍以前は花見や海へドライブをする等、季節ごとに外出機会を設けたり、道の駅や近くのショッピングセンターに買い物に出かけたりしていた。今年度は、気分転換に近所を散歩したり、買い物を希望された場合は通販を利用する等利用者が楽しめる工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が主に担っている。以前は、行事で買い物に出かけた際に、能力に応じてお小遣いで買い物を支援していたが、現在は殆ど対応できていない。受診の際に自販機での買い物を支援する程度となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたいとの希望がある時は対応し、連絡先の入力などを支援している。また、手紙のポストへの投函を手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の清掃や消毒は毎日実施している。また、温度や臭い、過剰な音や光など利用者様が深いと思うようなものがない様に努めている。また、玄関や廊下には季節の飾り物を展示して季節を感じてもらえるよう配慮している。	共用空間はコロナ感染予防のため、1日2回の消毒を行っている。利用者と職員とで一緒に作った創作物が共用スペースや廊下に飾られており、季節感や制作したのを見て楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファや椅子を置いて、自由に過ごせるようにしている。また、リビングでも気のあった方達が過ごせるような雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人が希望されるものを置いたり飾り付けをして、居心地よく過ごせるよう図っている。	備え付けのベッドとタンスはあるが、テレビや冷蔵庫等のほか、使い慣れたものを持参したり、写真や創作物を飾ったりして個々が居心地よく過ごせる居室に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが設置されている。また、エレベーターが設置されており階上にあがるのに使用している。残存能力を活かして生活が送れるよう図っている。		